

E
エッセイ
ssay.

同世代の青少年交流を目的に姉妹都市トリード市で毎年開催されている「インターナショナル・ユース・アカデミー (IYA)」に、今年も豊橋市・豊川市から10名の高校生が参加します。その参加メンバーの中には、5月に来豊したトリード大学生(p.2)のホームステイを受け入れた家庭がありました。今回は、その高校生からホストファミリーの体験談をいただきました。

トリードでまた会えるね!!

エリーと土井さんファミリー
豊橋駅で別れのとき



豊橋東高等学校 土井 彩結美 (写真左)

私の家には、エリーという女の子が来ました。エリーはとても優しく、英語が少ししか分からない私たち家族のために、とてもゆっくり分かりやすく話してくれたり、教えてくれたりしました。また、エリーの日本語はとても上手でした。私はもっと話したり伝えたいことはたくさんあるのに、うまくいなくてくやしい時が何度かありました。エリーと出会って、英語を話せるようになりたいという意欲がとても大きくなりました。

エリーとはたくさんの場所に行きました。カラオケに行ったら私たちも一緒に洋楽を歌いました。温泉にも行きました。会話はうまくできなくても、とても楽しい時間を過ごせました。

私が特に印象に残っているのは、エリーと一緒にアメリカの朝食を作ったことです。英語と日本語の交った言葉で話しながら、クリスピーベーコンやスクランブルエッグなどを作りました。とてもおいしくて、私たち家族は何度もエリーに「エリーが帰った後も、また家で作るね!!」と言いました。

私はこのホームステイの受け入れをして、本当に良かったと思います。たくさんの外国の人と触れ合い、友達になることができました。エリーたちは、今度私たちがトリードに行ったら、大きな遊園地に連れていってあげると言ってくれました。別れるときは涙でいっぱいでしたが、また会えると思うと本当にうれしいです。

この思い出は私の一生の宝です。Thank you!!

ラムジーとの一週間



ラムジーと杉浦さんファミリー

国府高等学校 杉浦 郁真 (写真左)

ラムジーに初めて会った時、他の大学生とは違い落ち着いていておとなしい印象でした。歓迎会の時にはきちっとした格好でとても大人に見え、一週間楽しく過ごせるのだろうか?と不安でした。彼はサウジアラビアからの留学生で、兄弟も多く、子供の頃は布団を敷いて寝ていたそうです。和室で寝てもらうことに不安がありましたが大変喜んでくれて、リラックス出来たのか次の日から、明るく元気になってくれてホッとしました。

自宅では習字にチャレンジしてもらい、親戚のお寺へ見学にも行きました。日本のアニメが大好きなので一緒にソファに横になって漫画を読んだり、アニソンを聴いたり、まるで兄弟のように生活していて、別れる頃には彼が家にいるのが当たり前を感じていました。二人で行動することが多く、一緒に映画を見に行ったり、のんほいパークにも行きました。

この夏のIYAでは、僕がトリードでホームステイもさせていただきます。彼がアメリカに戻ってから母にメールで「お母さんの料理が食べたい」と日本語で送ってきました。ラムジーが我が家でそうだったように、お世話になるご家庭の家族になりたいです。僕がトリードに行く時にはラムジーは休暇中でサウジに帰ってしまっているけれど、今回来豊し仲良くなったトリード大学のみんなとまた現地で会えるのが楽しみです。IYAでの経験が素晴らしいものになるよう頑張りたいと思います。